

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.104

www.jsaf.or.jp



毎朝いっしょに。 ナビスコプレミアム



ヤマザキナビスコ

JSAFからのメッセージ

2013年のトピックス

3年の間、議論してきたユース世代の制式艇種420級を決定し、2015年の和歌山のインターハイや国体で採用されることが決まりました。

昨年420艇購入のための寄附金を募り、それを原資の一部とし、全国の団体に練習艇購入のための援助を行ってきました。

外洋レースでは神戸―横浜レースの復活、トランスパックやニューヨークヨットクラブの招待杯で日本人セーラーたちの活躍がありました。

また、日体協やJOCの指導もあり新たに倫理委員会や第三者による相談窓口などを設置いたしました。

さらに2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まりました。政治的・経済的なメリットだけでなく、スポーツ文化を根づかせる意義ある決定であり、皆様とともに喜びたいと思います。

約半世紀ぶりの東京でのオリンピックです。世界のスポーツの祭典に参加してみませんか。世界の人々と交流できるなど、貴重な経験のできるチャンスです。日本が誇る「おもてなし」の心を発揮してみませんか。日本そして世界の人々に夢と感動を伝えたいと思っています。

会員の皆様方におかれましては、どうぞ良い年をお迎えください。2014年が素晴らしい年でありますように。



■ジュニア・ユースにも届きます。

J-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方々は、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

■PDFでも読めます。

JSAFホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/>にアクセスしてください。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■メールアドレスをお知らせください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAFもメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いです。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>

日本唯一の 賞金マッチレース

NST2013 伊藤園マッチレース・年間優勝決定戦

ニッポンセルトレーニング葉山 (NST) 主催の「NST 2013 伊藤園マッチレース年間優勝決定戦」が神奈川県葉山町沖にて11月2日に開催された。優勝したのは女性が中心の藤井うららチームだった。

レポート／坂本安広 (レース委員長)
写真／J-SAILING 編集部



微風下だったが随所に激しい競り合いが演じられた伊藤園マッチレース

優勝賞金は30万円

マッチレースといえば日本チームがアメリカズカップに参戦しようとしていた頃から知られるようになったが、日本が経済不況になると大きなレースもできなくなってきた。しかし、NSTやマッチレース協会の尽力の下、その後を引き継いだ若い人を中心に、今でも年間を通してそのスキルを磨いている。

NST主催による年間8レースのマッチレースシリーズは、今年から(株)伊藤園の後援を得て毎回の優勝者には賞金が出ることになり、例年になく盛り上がりを見せている。今年は天候に恵まれて6戦を消化できた。

最終戦の第8戦の参加者は2013年の7戦までの合計ポイント1位から6位までの6名のスキップパー。また、優勝の30万円をはじめ3位までのスキップパーに賞金が授与されるとあって、当日の朝はレース前からいつにない緊張感があった。

年間ポイント上位の6人は1位・藤井麗、2位・村越俊介、3位・市川航平、4位・大野稔久、5位・浜崎栄一郎、6位・安原保の各選手だったが、浜崎選手がエントリーしなかったため、戸谷壽男選手の参加となった。

当日は20度を中心に0から50度までのシフトな3〜5mの微風下、8フライトを行った。その結果、優勝は藤井、2位市川、3位戸谷、4位大野、5位安原、6位村越の各選手となった。1位から3位の3選手はポイントではタイだったが、それぞれの直接対決の結果で順位が決まった。

藤井うららチームの勝因

優勝した藤井選手最大の勝因は「微風」であったかもしれない。しかし、今回私が挙げたい理由は別にある。そ



賞金を手にした藤井スキッパー。左は NST の小田切満寿雄代表。NST は葉山を拠点としてセーリングの開催、月例フリートレースやマッチレース、セーリングスポーツのイベント、ヨットのチャーターなどを行う NPO 法人だ

れは、第2フライトの第3マッチでの、あわやリコールかというくらいにジャストスタートである。意図したかどうかは不明だが、リコール寸前の数秒間はジャストスタートをする意思があったと思う。

以前、ニッポンカップでビーター・ギルモアがスタート直前にポートタックで本部艇のポート側スターンに突っ込み、接触する10cm手前でタックしてジャストスタートを切っていたが、それを再現したようなスタートであった。

2位の市川選手は理論派セーラーだ。レース後のブリーフィングではいつもレース中のケースについて話題を提供しており、ルールと戦術についての向上意識が高い有望なスキッパーだ。今回は同率ながらも優勝を逃したが、確実に上位に食い込んでいるのは頼もしい。3位の戸谷選手は日本のマッチレースの草分けの1人で、今も現役レーサーだ。今回は堂々の3位で他のスキッパーに刺激を与えていただいた。国際レースの経験が豊

富で、スタート時の位置取りがすばらしかった。

4位から6位のスキッパーもいつものマッチレースではそれぞれに活躍しているが、今回は調子が出なかったようだ。今回の結果を糧に、来年の奮起に期待したい。

気づいたこと

今回のレースで気になったことが2つある。

ひとつは、総じてスタート時に艇の位置取りがスタートラインより低いこと。レース委員長としてはリコールが少ないので非常にありがたいが、当然、時間にスタートを切れず、スタートまでの時間は自由なレース展開ができなくなる。マッチレースだから相手も同様な状況では不利にはならないと言われることもあり、それが正しい場合もある。しかし、スタートという制約事項を相手よりも早く排することにより、自由度を高めて次の一手で相手を攻撃できれば、勝率も確

実上がる。それがマッチレースの面白さだ。そのためには、スタート時間にスタートし、自分にとっての最大のアドバンテージを手に入れることだ。ふたつ目は、常に自分の走りができてるか、ということ。

微風時に相手と同じ状況で艇を止めて対峙したのはいいが、その後、艇をコントロールできず走れない艇を見る。時間にスタートラインに戻れずリコールになる場合もある。結果として相手に大きなアドバンテージを与えてしまう。マッチレースだから相手と同じ状況であることに安心感を覚えるスキッパーには次のミスは待っていない。

マッチレースでもフリートレースでも自艇が相手と同等以上に走らなければ勝負にならない。少なくとも勝つためには艇を相手以上に走らせられなければ戦術も何もない。

またニッポンカップの話になるが、クルリス・ディクソンは微風のレースに強かった。そのディクソンの言葉を思い出す——「微風のスタートでは絶対に艇を止めるな、絶対にスタートラインから離れるな」

最後に、昨年までと違い今年はずつ新しい環境ができたことを報告。

ひとつは、(株)伊藤園の後援をいただき、「おいしい、お茶」のロゴの入った目にも鮮やかな緑色スピネーカーが葉山の海で目立ち、存在感を示した。もうひとつは、前述のようにマッチレースシリーズの毎回の優勝者に賞金が出たこと。マッチレースへの誘惑になることは間違いない。

来年も「戦うマッチレース」がますます盛り上がり、マッチレースのサポーターが一層増えることを祈っている。

優勝記——藤井うらら (スキッパー)

4月から11月にかけて月1回のペースで日本セーリングマッチが行われました。

4月の初戦は、月光ボイズ市川チームが優勝し、2戦目からはベテランの戸谷チーム、村越チーム、そして、浜崎チームの圧倒的強さの2連勝と続きました。また、10月に優勝したのは今年初参戦の大野チームでした。私たち女子チームは、毎月あと少しのところで優勝を逃し、悔しい思いをしてきました。

そして迎えた最終戦、11月2日の葉山マリーナ。微風の中、最後まで誰が勝つかかわからない白熱したマッチとなりました。フィニッシュするまでのポジショニング、ボートを止めない、気を抜かないことをチームで話し合い、集中して戦いました。

最終フライトでフィニッシュしても自分たちが優勝したと気づかず、陸に上がったから知るといふタイミングのずれた感じになってしまいましたが、たくさんの人から祝福を受け、クルーたちと喜びを分かち合いました。

今年のマッチは私にとって特別な大会にもなりました。5月に、アリアンレースのために回航中だった一木正治さんが亡くなり、永遠のお別れとなりました。一木さんに助まれたマッチレーサーは多いと思いますが、私もその一人です。『攻めるにしても守るにしてもプレスタートではボートポ

ジションが大事。うららは自分からドツボに入っていくケースが目立つから、もう一度マッチの資料を読み直しなさい。艇速はあるからそれを活かせるポジションでスタートできれば勝てるようになるよ』と、私が負け続けてつらいときに励まして下さいました。

今回のシリーズでは、レース前日に何回も確認のため資料を読みました。その甲斐あって、自信を持ってスタートのポジション取りができ、ほとんどのフライトで先行してスタートラインを切ることができました。

最終戦前まで優勝がなかった私たちですが、コンスタントに上位につけていたので、最終戦の優勝と同時に、年間シリーズも勝ち取ることができました。信頼できるクルーのコンビネーションあっての勝利です。クルーのみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。これから女子チーム、頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、伊藤園様にご協賛いただいたことで、マッチレースに興味を持ち応援してくれる方が増えたと思います。マッチレースは船やセールの差がなく、相手艇と同じ条件で戦えます。ハンドリングやクルーワーク、バランス、戦略など、ヨットの基本を体と頭の両方で感じることでできるので、是非いろんな方に知っていただきたいです。来年も是非、ご支援のほどよろしくお願いたします。



藤井うららチームのメンバー。バウマンは日根野聰弥さん(写真右奥の男性)。いつものバウマンが乗れなくなり、急遽乗ってもらいました。マストハンドは金子純代さん(同右前)。私が大学ヨット部を引退してからクルーザーの道に導いてもらい、憧れでもあり、一番の恩師です。ピットの佐藤夏海さん(同中央)。J24やマッチレースのピットを長い期間やっているの、安心して任せられます。陸でも良い相談相手です。シングルハンダーで国体出場経験あり。ジブトリマー、小川紗津貴さん(同左後2番目)。私が何を考えて、何をしたいか理解してくれるので助かっています。優しくて面白くて、チームのムードメーカーです。メイントリマーの小田原美香(同左前)。実の姉であり、ヨットでは大先輩で尊敬しています。姉妹仲がよく、大事な存在です。このほか、永山桃子さんがメイントリマーを担当しています。OP時代からの幼なじみで、女子マッチチーム結成当初から一緒に乗っています。そして左端が私です。

Japan Melges Week 2013

国内初 3クラス揃っての メルジェス大会

11月2日～4日に新西宮ヨットハーバーで
ジャパンメルジェスウィーク
(兼 全日本メルジェス32・メルジェス24・
アウディメルジェス20クラス選手権大会)が行われた。
同ハーバーでは国内セーリングイベントで最も注目されている
全日本インカレも開催。
その熱気に負けじと福岡、高松、琵琶湖、西宮、蒲郡、葉山、三浦、
横浜、浦安からメルジェスセーラー98名が集結、
3日間微風続きの神経戦の中、4レースの熱戦が繰り広げられた。

レポート/日本メルジェス協会
写真/関西ヨットクラブ提供



アウディメルジェス20クラスのレースシーン



アウディメルジェス20クラス優勝の〈Mamma Aiuto!〉



〈Mamma Aiuto!〉チーム



アウディメルジェス20クラス2位の〈North Star〉



メルジェス24クラスのレースシーン

アウディメルジェス20クラス

アウディメルジェス20クラスは7艇が参加しました。メルジェス各クラスの中でもとくに今年、話題となっているクラスです。3人で手軽にセーリングでき、かつディンギーのような軽い感覚でまさに老若男女を問わないどんな人でも楽しめるクラスです。

しかし、今回集まってきたチームを見ると手軽さという響きからはほど遠い、国内屈指のチームばかり。2013年メルジェス32ワールド7位の成績を持つ〈Mamma Aiuto!〉、先日のJ24全日本ウイナー和田大地をヘルムスマンに起用した〈North Star〉、2012年X35全日本ウイナー〈Galaxy20〉など全チームがタイトルをひとつ以上は持つ錚々たるクラスです。

その中で〈Mamma Aiuto!〉と〈North Star〉が熾烈な戦いを繰り広げ、同ボ

イントで〈Mamma Aiuto!〉が優勝となりました。

また来月におこなわれるアメリカワールドには〈Mamma Aiuto!〉と〈祖国丸〉が参戦予定とのこと、今後まったく目が離せないクラスとなりそうです。

メルジェス24クラス

メルジェス24クラスは8艇が参加。実は2005年に大阪府の淡輪で開催されて以来、8年ぶりの全日本選手権復活です。全日本開催が今回で8回目となり、メルジェスポートの中で国内では一番普及しているクラスです。

24フィートと小さいながらも風速38ノットを記録する大荒れとなった他のレースでは、なんとミドルポートクラスを従えてファーストホームするスピードと強靭さを併せ持つ素晴らしいボートです。

今年の本大会は微風に終始したた

めメルジェスのパフォーマンスを生かされたいコンディションでしたが、2011年メルジェス32ワールド4位の〈Yasha Samurai〉が2、1、1、1のほぼ完璧な成績で優勝を飾りました。

このクラスでは毎年国際レースで日本チームが活躍しており、来年1月に行われるオーストラリアワールドに〈Three Bond〉、〈Esire〉が参戦を予定しています。全国各地でメルジェス24は活躍しており、あらゆるセーラーにとって一番身近な存在でもあります。

メルジェス32クラス

最後にメルジェスポートで最大のメルジェス32クラスです。

アメリカズカップ、オリンピックで活躍するセーラーが中心となってフリートを形成する世界で最もレベルの高いクラスと言えます。今大会のアウディメルジェス20、メルジェス24の優勝チームが



メルジェス 24 クラス優勝の〈Yasha Samurai〉チーム



メルジェス 24 クラスの〈ISLAY〉



メルジェス 32 クラスのレースシーン



メルジェス 32 クラス優勝の〈Queteefek〉



〈Queteefek〉チームの面々

3クラスが揃ったレース開催を告知するフライヤー

メルジェス32出身チームであることから
もわかるように、国内でも花形のクラス
です。
その花形クラスには4艇のエントリー
があり、数こそ少ないものの一番熾烈な
レースが展開されました。
その熾烈な戦いの中で見事に優勝を
飾ったのは〈Queteefek〉。X35全日本
2連覇、昨年、今年とメルジェス32ワ
ールドに参戦している国内有数の強豪チ
ームです。
ワールドには日本から2013年に4
チーム、2012年には6チームが参加
しています。
この数はアメリカ、イタリアに次ぐも
のですが、このハイレベルなクラスにこ
れだけのチームを送り出すことができる
日本の熱気がわかります。
現在、国内に5艇ありますが今大会の
花形クラスにとどまらず、国内キール
ポート界の花形と言われるフリートに成
長してほしいクラスです。

爆走を楽しみたい方へ
このように、3クラス揃ったメル
ジェス大会は今回初めて行われ、また
世界でも初の試みとなりました。
前述のように老若男女、デインギー
セーラーからキールポートセーラー、プ
ロ・アマ問わずすべてのセーラーが楽し
めるポートであり、ダウンウインドでは
どのクラスもスピードが20ノット前後の
爆走をイメージに味わえる最高のポ
ートです。
主催者である当協会は、昨年まで「日
本メルジェス24クラス協会」として運営
していましたが、メルジェスの3クラス
を統合するために今年から「日本メル
ジェス協会」と名称変更し、体制も一新
しました。
同じメルジェスポートではありませんが
各クラスそれぞれ特色があり、楽しみ方
もまた多様です。「より楽しいセーリン
グを！」と求めておられるセーラーの皆
さん、ぜひ一度当協会までご相談下さい。
(info@jpmelges.com)